

1 事業名 教員免許状更新講習

2 必要性

平成21年度から開始された「教員免許更新制」は、その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊厳と信頼を得ることを目的としている。

今日の子どもの現状として、基礎的な体力の不足や低下、基本的な生活習慣や生活リズムの乱れ、意欲を持ってないことや希薄な対人関係などが指摘されるとともに、いじめ、不登校、引きこもり、学級崩壊などの問題が顕著になっている。こうした問題の原因として、子どもへの保護者の関与の少なさや地域の大人の関心の低さ、そして、自然とのふれあいや仲間との交流の少なさといった直接体験の不足があげられる。このような状況に対応するため、平成20年3月に告示された学習指導要領においては、子どもたちに社会性や豊かな人間性をはぐくむため、その発達段階に応じ、集団宿泊活動(小学校)、職場体験活動(中学校)、奉仕体験や就業体験活動(高等学校)を重点的に推進するとしている。

体験活動の充実を図るためには、教員自らの体験活動を豊かにするとともに、教員が体験活動に関する基礎的な知識技能を身に付けることが求められる。そこで、小中学校や高等学校等に、宿泊活動の場として自然体験や生活体験等の機会を提供し、体験活動の指導に関する豊富なノウハウを有している当施設においては、自然体験や集団宿泊活動を中心に、教員が「実際に体験」し、「子どもたちへの指導方法を学び」、併せて「学級経営や問題行動対策等への活用方策についても考える」講習会を実施する必要があると考える。

3 趣旨

教員が体験活動の意義について理解するとともに、児童の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な体験活動の指導技術を身に付ける。また、学習指導要領における体験活動の取扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に体験活動を取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

4 期日

平成22年8月6日(金)～8月8日(日)

5 参加者

(1) 募集対象・人数

小学校教諭(平成23年3月31日及び平成24年3月31日が終了期限の者)・30名

本講習の受講対象者の生年月日

- ・昭和30年4月2日～昭和31年4月1日・昭和31年4月2日～昭和32年4月1日
- ・昭和40年4月2日～昭和41年4月1日・昭和41年4月2日～昭和42年4月1日
- ・昭和50年4月2日～昭和51年4月1日・昭和51年4月2日～昭和52年4月1日

小学校の事例を多く扱うため、主な対象を小学校教諭としたが、中学校教諭・高等学校教諭等も受講可能とした。

(2) 参加人数 36名



全日程が終了し笑顔の受講者

(3) 参加者分析

小学校教諭30名,中学校教諭5名,高等学校教諭1名と様々な校種の教員の参加となった。

(4) 参加地域 島根県26名,鳥取県4名,広島県5名,三重県1名

6 講師等

- 近藤 剛 氏 (鳥取短期大学准教授)
- 葭矢 崇司 氏 (島根県立三瓶自然館「サヒメル」学芸課課長代理)
- 竹内 幹蔵 氏 (島根県立三瓶自然館「サヒメル」天文事業室長)
- 戸田 美之 (国立三瓶青少年交流の家事業推進室長)
- 重田 幸輝 (国立三瓶青少年交流の家企画指導専門職)



近藤講師の話に集中する受講者

7 参加経費

22,670円

8 事業の内容

(1) 事業の特色

教員免許状更新講習対象の教員が,教育の現状と課題,体験活動の意義や教育効果についての理解を深め,実体験を行うことにより,児童生徒への指導方法を学び,授業や学級経営などに活かせるようにした。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

教員免許状更新講習対象の教員に,子どもの現状を踏まえた体験活動の必要性や教育効果,また,教育課程における体験活動の位置付けなど,体験を通して理解できるようにした。そして,野外炊事や自然観察など実際の体験活動を行い,体験活動を実施する際に必要な指導技術を学ぶ機会とした。

(3) 広報のポイント

平成21年度は,広報開始の時期や本講習の実施時期などから受講者が募集定員30名に対し10名だった。平成22年度は受講者のニーズを分析し,広報開始の時期を2月中旬と本講習の実施時期を夏季休業中の8月に設定した。当施設及び文部科学省ホームページに募集要項をアップし,募集を開始した直後に多くの問い合わせや申し込みがあった。その結果,キャンセル待ちを含めて42名の申し込みがあった。このことから,本講習の実施時期は夏季休業中の8月上旬,広報開始時期を2月中旬に設定することが本講習の受講対象者のニーズにマッチしており,多くの受講対象者の応募につながったと考える。そして,本講習は2泊3日の1回の講習で選択領域の18時間がまとめて履修認定できることも多くの応募につながったと考えられる。

(4) 日 程 表

	9:00	10:00	12:00	13:00	14:30	15:00	16:30	20:00	21:00
8/6 (金)	受開講付式	講義 「体験活動と成長の過程」	昼食	講義 「体験活動の意義と新学習指導要領」	実習 「体験活動の意義と新学習指導要領」	つたどい食	実習 「授業に活かせる天体観察の指導法」	入就浴寝	

8/7 (土)	6:30	9:00	10:00	15:30	16:00	18:00	19:30	21:00
	起つ朝 ど 床い食	講義 「集団宿泊活動の現 状と効果的な指導法」	実習 「ねらいに応じた 野外炊事の理解と 実際」	講義 「学級経営に活か せる体験活動の指 導法」	夕 食	情報交換会	入就 浴寝	

8/8 (日)	6:30	9:00	12:00	13:00	14:30	15:00
	起つ朝 ど 床い食	講義・実習 「子どもたちがワクワクする自然観察の 技術」	昼 食	評価 「履修認定試験」	閉 講 式	解 散

(5) 運営のポイント

実際の体験活動を行い、野外炊事や自然観察等を実施する上で必要な技能や安全管理を学ぶことができるようにした。体験活動を単なる活動で終わらせるのではなく、教育効果を高めるための方法を提示することにより学習指導や学級経営に活かせるようにした。また、体験学習法の循環システムを取り入れてプログラムを計画するように講義や実習の流れを工夫した。それぞれの実習や講義においても体験学習法の循環システムを意識して活動ができるように実際の活動の後のふりかえりを大切に、受講者がそれぞれの教育実践に活かせるようにした。

(6) 安全管理のポイント

活動場所の事前踏査、周到的な物品準備物、参加職員の共通理解を図った。活動前にオリエンテーションを行い、受講者に施設の危険箇所や危険な動植物等について周知した。また、朝・夕のつどいや講義の開始時に健康観察を実施し、受講者の体調の把握に努めた。

9 成果と今後の課題

受講者のアンケートにおいて「どれも学校現場に生きる活動であった。」など、本講習全体を通して、受講者全員から満足できる評価をいただいた。また、「レクリエーション的な活動は明日にでもできそうな内容でした。」などのアンケートの記述があり、受講者に授業や学級経営に活かす体験活動の理論や技術について十分な理解を得ることができたと考える。そして、本講習の開催時期と受講者のニーズがマッチしたことにより、募集定員の30名を大きく上回る42名(キャンセル待ちを含む)の申し込みがあったことも大きな成果である。

10 普及計画・普及実績

講習内容及び成果について当施設ホームページで紹介する。また、企画事業報告書を作成し、青少年教育施設、青少年教育関係機関等に送付し成果の普及を図る。



体全体で自然観察をする受講者



ねらいに応じた野外炊事の様子



体験活動の指導法を学ぶ受講者